

第三九九回 散紅葉の巻

起句	01)	散紅葉(ちりもみじ)仁王のまなこ光りけり	悦子
	02)	縄あたらしき松の霜除	七緒
	03)	提灯屋番傘炙る匂いして	松陽
	04)	石鹼玉(しゃぼんだま)吹く子等の喚声	和子
月	05)	入り組んだ路地の向こうの朧月	笈羅
折端	06)	生あたたかく油まじ寄せ	恆雄
折立	07)	元勲の妾宅近く磯遊び	七
恋	08)	スマートな君姿陽炎(かぎろ)う	松
	09)	サンセット背に舟曳いて来る漢(おとこ)	和
	10)	祭壇の上サルビヤ供え	笈
	11)	三伏の闇に荊冠露を置き	恆
	12)	ト占当たる? 難儀続きで	和
月	13)	台風禍片付け終わらず仰ぐ月	松
	14)	盆狂言の奉行は切腹	七
	15)	この年の秋刀魚は桐の箱入りを	笈
	16)	津軽の箸を思わず咬んだ	恆
花	17)	顔見せぬ佐竹の姫の花襲(がさね)	亜湖
折端	18)	春のショールをレースで編んで	松
折立	19)	断捨離の遅々と進まず烏雲に	和
	20)	柳絮飛ぶのをぼんやり眺め	笈
	21)	ムツゴロウ記述問題くそ食らえ	七
	22)	学生の死を無駄にするなよ	亜
	23)	殿様がフィガロに返すあの権利	恆
	24)	熱帯夜には思考力ゼロ	和
	25)	バタフライの泳ぎ完成八十歳	松
恋	26)	ピカソの妻と蟬蛸(かげろう)の命	七
	27)	ラリックのサフラン髪に飾られよ	亜
	28)	長薯並ぶ信州の店	笈
月	29)	円かなる月に迫るは黒い穴	恆
折端	30)	下着一式数え日に買う	松
折立	31)	初手水(ちようず)ダウン・Gパン・スニーカー	七
	32)	神妙に打つ二礼三拍	亜
	33)	ぬくもった土ついたまま野蒜(のびる)摘む	笈
	34)	霞か雲か天使羽ばたく	恆
花	35)	花みる会うらの思惑おもてに出	和
	36)	蝌蚪の紐めく田蔵田(たくらだ)の群れ	亜

2019・11・14

於 都内某所

連衆・悦子、七緒、松陽、和子、笈羅、恆雄、亜湖